

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

事業期間 H21 ～ H23

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	商工観光課

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）	
基本施策ID	基本施策名
4 - 1 - 2	人が集い、農林業・産品を通じた交流を高める
重点施策ID	重点施策名
- - -	【体系外】

2. 事業名等	
事業名	「食の充実」事業
事業区分	② ①新規 ②継続 ③その他 ()
細事業名	
事業主体	市
事業種別	① ①自治事務 ②法定受託事務
実施期間	平成 20 年度 ～ 平成 26 年度 根拠法規
各種の計画への反映 (=根拠計画)	豊後大野市観光まちづくりビジョン
事業ID	

3. 事業の内容等	
事業の背景 現在、国内観光のあり方が見直され、旅行者の関心は従来の発地型観光から着地型観光に集まり始めている。また、消費者の地産地消への高まりと共に、安心安全な食への欲求も高まりを見せており、豊後大野市が持つ多くの自然資源や豊かな農林産物など多彩な資源は、これらの欲求を満たすに充分である。	補助事業
	名称
	補助率
	国 県 その他 1/ 1/ 1/
	起債の種類
	①
	②
	③

事業の目的及び対象	事業概要
【目的】 地産地消の推進並びに都市住民との交流促進を図る。	市を代表する名物料理の確立・ブランド化を図り、市に訪れた人に「豊後大野の食」としての選択肢の追加を図る。そのため、以下の事業を商工会、観光協会とタイアップしながら検討する。① 地産地消を生かした料理の充実とブランド化、② 食を普及する人材の育成、③ 食を支える組織づくりと運営
【対象】 市民及び交流客	前年度の評価 評価結果に基づき見直した内容
	F 商工会が取り組んでいる食の開発を目的とした全国展開事業とのタイアップによる事業の推進
	拡大

4. 予算・決算の状況 (単位：千円)							
財源内訳	H 17 H 18 H 19 H 20 H 21 H 22 H 23～						
予 算	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他				2,261		
	一般財源				1,131	0	0
計				3,392		0	
決 算	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他				1,070		
	一般財源				1,070		
計				1,070			

5. 実績及び達成目標等			
過去3年間の事業実績と課題			
平成18年度	平成19年度	平成20年度	課題
【実績】	【実績】	【実績】 坐来大分豊後大野市フェア 1,070千円	今回、都民を対象に本市の食材を活用した料理を提供したが、これを観光客向けに安価に提供できるようアレンジすることや、市内の食関連業者へ普及させることが重要である。

達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値	
活動指標	料理の充実・ブランド化
効率指標	-
成果指標	農林業体験参加者数（農家民泊者数）
年度	H 17 H 18 H 19 H 20 H 21 H 22
種別	
目標値	参加者 600 参加者 700 参加者 700
実績値	600
達成率	100.0%
備考	

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

評価対象年度 H20 年度

評価実施年度 H21 年度

担当部局	部局名	産業経済部
	課室名	商工観光課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	4	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	観光に占める食の比率は大きく、観光客が訪れる大きな要素となっている。このことを考えると、従来からある食のPRに加えて新たな郷土料理の開発とPRが必要である。				
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	2	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	PRや新たな郷土料理の開発に向け、商工会や観光協会との連携強化が必要である。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	食の開発や情報発信、農林業体験については、商工会や観光協会、農業者や農家民宿等と連携のもと、当面は行政が主体となり取り組む必要があるが、事業確立後は民間が主体となるのが効率的である。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	様々な機会を通じ、農林業体験や農家民宿等の情報発信、利用促進に向けた事業を行ってきたことにより、周知は図られつつあるが、農林業体験者数や宿泊者数の伸びは顕著とはいえない。また、食の開発については、坐来大分において豊後大野フェアを実施。期間中は、本市産の食材を中心とした創作料理を提供し好評を得たが、本市でそのままの形で活用するのは難しい。しかし、食材は、坐来の主要メニューに多数使用され、坐来での認知度は高まりつつある。				
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	新たな郷土料理の開発は急務であり、商工会の全国展開事業と連携し、新たな食の開発に向け取り組みたい。				
人 体 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	兼務のため減員できない。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	F	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	事業実施に当たっては、民間活力を活用した実施形態で行う。				
その他、特記事項	事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
<p>ライブツーリズムを推進する上で、農林業体験に加えて、新たな食の開発が求められている。幸い本市には、乾しいたけや豊後牛、豊のしゃもなど食材としてのブランド品が数多くあり、食材には事欠かない。開発に当たっては当面は行政が主体となり、商工会や観光協会と連携することで、効率的に効果をあげることが期待できる。</p>					
部 長	課 長	班 長	担 当 者	内線 E-mail @bungo-ohno.jp	